

という前提があり、ある種気楽な気質です。私は北海道の人が大好きですが、素晴らしい人たちが多くにもかかわらず、植民地根性があると感じます。北海道の未来に対して責任を持たない人が多すぎるように感じてしまうのです。

北海道の観光は非常に人気が高いです。北海道に来るまでの期待度はどの地域よりも高い。しかし、期待度の高さが実現されているかという点、そうではない。結果として、満足度が低いものになってしまっています。現在の北海道は安売り観光の大地になっているのではないのでしょうか。他律的観光から自律的観光の大地に切り替えていく必要があります。北海道は、本州から来るには旅行経費が高い、ホスピタリティのレベルも低い、などハンディも多い。そういう意味で、北海道の未来はばら色かということ、必ずしもそうはいえないのです。

■北海道観光のポテンシャル

私は、北海道は「感幸」の大地になり得ると考えています。それは、日本だけでなくアジアの地域の人々にとって、ということです。今、例えば沖縄と比べると北海道は様々な点で分が悪いのですが、10年後を考えると確実にすべての面で優位性を持っている。それだけ可能性のある大地といえます。

まず、多様な観光資源、食料自給率が断トツの201%。北欧諸国と比較すると、GDP、人口もそれほど変わらないので、北欧のような発展も可能性として考えられます。日本のなかで独立してやっていける地域は北海道だけでしょう。植民地的北海道から独立を意識した北海道を考えた時に新たな可能性が出てくると思います。

これからは北海道イニシアチブが大変重要になってくると思います。つまり「北海道なればこそ」「北海道だからこそ」という考え方です。北海道遺産は北海道イニシアチブの典型といえるでしょう。真っ先に手掛けられ、ここまで育ててこられた方々に深い敬意を表したいと思います。

他律的観光の大地から自律的観光の大地へ変えることができるかどうか。安売り観光から、人生を楽しむことのできる観光の大地になりうるかどうか重要なポイントになっていくでしょう。すでに、花と食をめぐるツーリズム、ヘルスツーリズムなどが実現されていますし、スポーツツーリズムのメッカにもなり得る可能性も高い。北海道らしく環境への負荷の少ないコンベンションのあり方も生み出せるでしょう。また、多文化観光の優位性もあります。従来、アイヌ民族の方々は観光を否定的に受け止められてきましたが、連携を図り、多文化観光をよりよい形で進めていくべきです。北海道遺産にアイヌ文様や地名、口承文芸が選ばれていることも重要なポイントだと思います。

経済産業省では、ラグジュアリートラベルマーケットの研究を進めています。いわゆる富裕層は世界に900万人いる。今、世界では富裕層のトラベルマーケットをどう押さえていくかが重要になっています。カジノはギャンブルと批判されますが、ある種の地域開発装置です。国会でも立法化の動きがありますが、北海道は動きが鈍い。沖縄は真っ先に手を挙げています。公的にきちんと管理しさえすれば、地域開発の資金を得られる可能性があるのです。

■自立的観光が北海道の未来を拓く

私は、地域の宝である「自然の美+人工の美+人情の美」をより高めていくことによって、北海道に新たな可能性が見出せるのではないかと考えています。すでに、北海道の皆様方が貴重な地域資源を北海道遺産という形で活用しているのは重要なことです。そのレベルをどう高めるか。

残念ながら、日本全体で新しい観光のあり方を創造していく人材は潤沢にはいません。北大が大学院観光創造専攻を開くのも、地域の中で地域資源の活用を図り、地域の自律的観光を進めていける人材をひとりでも多く輩出して行きたいという意図があります。すでに北海道遺産という形で先行して地域資源を大事にしていこうという人々が集まっているので、この動きを進めながら、北海道において地域資源がよりよい形で活用され、新たな可能性が高まっていくことを祈念して、話しを終わりにしたいと思います。ありがとうございました。